

人工衛星 QuickBird がとらえた世界遺産

-法隆寺周辺-

データ収集：宇宙技術開発株式会社

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の画像から五重塔と金堂を中心とした西院伽藍の領域を拡大してみました。建物名称の枠の色は建造された時代を表しています。青色：飛鳥時代、緑色：奈良時代、赤色：平安時代、橙色：鎌倉時代、水色：室町時代です。607 年法隆寺建設（飛鳥時代）から 1438 年南大門建設（室町時代）まで、約 800 年にわたる建造の変遷を伺い知ることができます。五重塔の影の部分を見ると、まさに五十になっており、周辺の植生の繁茂状況や土地利用状況等、航空写真に匹敵する精度で判読できます。時系列で高分解能衛星データを観測・蓄積すれば、世界遺産の周辺環境監視、維持・管理情報の 1 つとして役立つはずです。

